

IPMUは急成長しています

IPMU 機構長

村山 斉 むらやま・ひとし

数物連携宇宙研究機構（IPMU）は真の意味で国際的な研究機関になることを期待されています。既に英語を公用語とし、講演や案内は全て英語でなされています。平均して月一回は国際会議をもち、殆どの講演者は外国から来ます。

うれしいニュースがあります。既に二人の外国人研究者がIPMUの教員に着任することになりました。マーク・ヴェイギンズ教授はカリフォルニア大学アーヴァイン校から既に着任し、世界的に有名なスーパーカミオカンデ実験を一部変更して、何十億光年も遠くで爆発した超新星から来るニュートリノを捕えようとしています。このIPMU Newsの第2号で彼の自己紹介をお読み下さい。シメオン・ヘラーマン准教授は、インシュタインが後年を過ごしたプリンストン高等研究所から着任し、膨張宇宙などの時空でのストリング理論を研究して、ビッグバンの神秘に迫ります。更に16人の外国人ポストドクが着任します。出身はヨーロッパ [5]、アメリカ [3]、アジア [7]、そしてオーストラリア [1] とさまざまです。彼らはIPMUの研究の全ての分野に亘り、天文観測から数学的研究までカバーします。そのうち二人（アレクサンドル・コズロフとチェン・チュアンレン）は既に着任し、本号で自己紹介をお読みいただけます。

IPMUは急速に成長しています。IPMUが昨年10月1日に発足したときは、現地には研究者は一人もいませんでした。今年秋には40人以上のフルタイムの研究者がいて、他の教室や研究機関からちょくちょくIPMUを訪れるビジターが更に20人ほど加わります。今一番の問題はスペースです。私たちのエキサイティ

ングな研究に参加する為、想像もできなかったほど速く人が集まって来ているからです。

新研究棟のデザインはかなり進んで来ており、真新しい研究棟への引っ越しを来年末までにはできると胸を膨らませています。自然光の入る大きな（400m²ほどの）交流エリアがあり、テーブル、椅子、沢山の黒板が並べられて、自然に議論が始まる場所になります。デザインを担当した大野教授によると、「ヨーロッパの町の広場にあるカフェ」のような雰囲気になるとのことです。ここでくだけた雰囲気で活発な議論が展開され、数多くの新地平を切り開く研究結果が生まれることを期待しています。

全くのゼロから世界レベルの新しい研究所を作るのは並大抵のことではありませんが、私たちの住む宇宙の神秘を解明する、という共通の夢に向かって共に励んでいます。

